

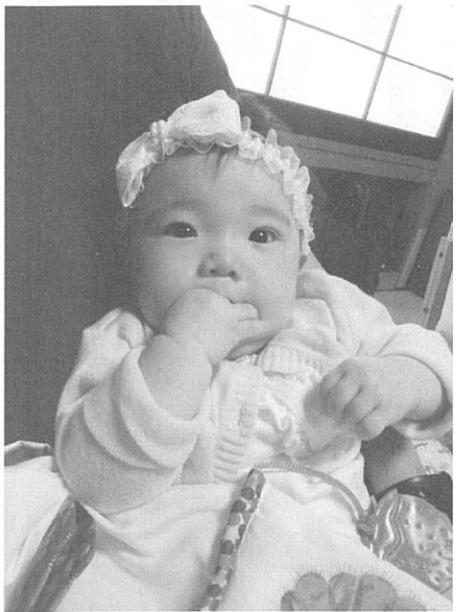
# あかだい

71号

真宗大谷派  
高徳寺通信

2015年 夏号

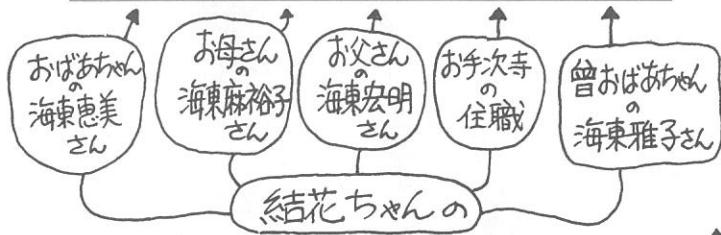




◆ 本日の主役の結花ちゃん。  
そのパチリ眼に、住職メロメロ…。

去る5月31日(日)に、ご門徒の海東雅子さんの曾孫の結花ちゃんの“お初参り”のお勤めをさせていただきました。

“大変に稀有なご縁で生まられてきてくれた、この子の人生には、沢山の喜びや感動することがあるでしょう。縁次第では病氣や怪我、トラブルや事故に遭遇するかもしれません。しかし、たとえ我が子に何事があろうとも、私はこの子の親としてこの子に寄り添い続けます。この子が生まれてきてくれてはじめて、私は親となりせていただきました。”と、阿弥陀様に誓う儀式が“お初参り式”です。式終了後に、先立つてお淨土に還つていかれた曾おじいちゃんの墓前へ壱つてご報告をされおりました。



◆ ご家族や身近な方で、赤ちゃんや、まだお初参り式をさせて貰いたい小さなお子様がいらっしゃったう、是非ともお寺でお初参り式をなさっていただきたいと思います。いつでも受け付けておりますので、お寺にご連絡ください。

◆ 表白・お勤め  
(今回は皆で正信偈を勧めました)。

お父・お母・お話しの後で住職から記念のお念珠が渡されました。  
しかし、若いおばあちゃんですね～。

## お初参りとは…

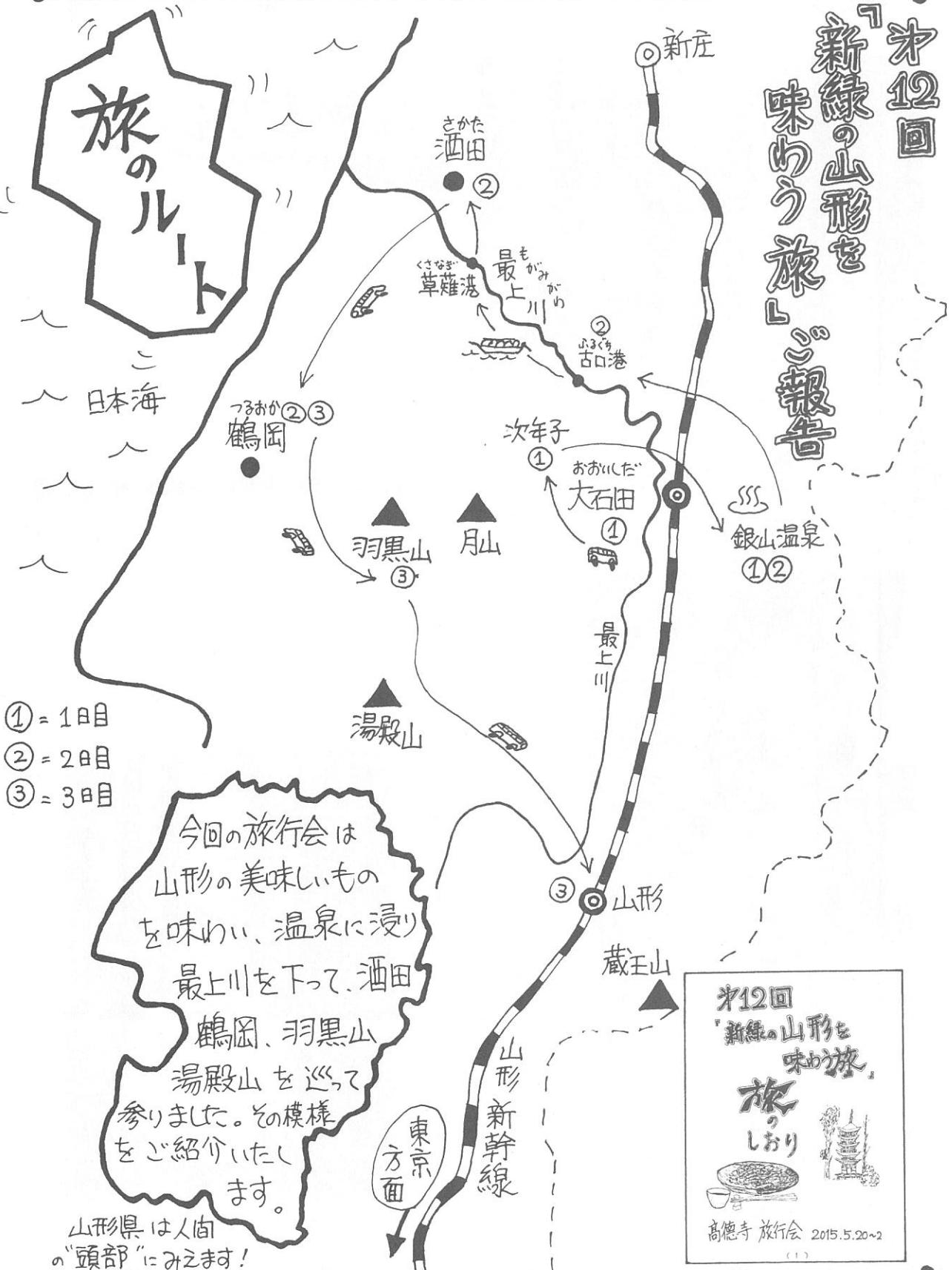
新しい“いのち”が誕生して初めてお寺にお参りをする、人生で最初の大切な儀式です。又、子どもを授かって初めて父、母になる親として歩む、出発点、でもあります。

「高徳寺さんでお初参り式をお勧めするのが、小さい頃からの夢でした…。」



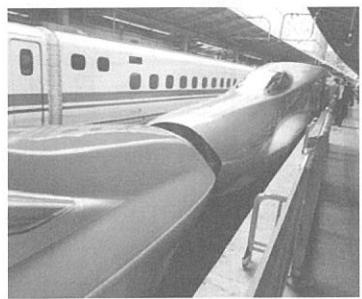
“ハチマキ”じゃなくて、“カチューシャ”よ…！

『新緑の山形を味めう旅』ご報告



5月20日
1日目
東京 → 大石田

↓ 次年子



善巧木さんと朝法話を聞きました。朝事の晨は、昨年、本山のお

晴天率9割を超える高徳寺旅行会。今回も東京はますますの天氣である。恒例の「ホームde集合」は一人足りないまま発車。少々焦るが、すぐに車内で合流することが出来、一行14名は山形新幹線・つばさ131号に乗って“大石田駅”を目指す。山形を訪ねようと思つたのは、昨年、



◆『平吉』さんの前でパチリ♪

に強い衝撃を与えた。その山形訛りと話の面白さについ声をかけてしまったのがきっかけである。東京駅から約3時間で大石田駅に到着。こちらも良い天氣だ。改札を出ると西蓮寺の鈴木住職が出迎えてくれた。山形交通のバスも待っていて、すかさず乗り込み

で「そば膳」と堪能する。地元の人は「すねご」と発音する。雪があまりにも多くて次の年にかかる出生届けを出しに行けなかたので次年子となつたのだそうだ。山菜やそばがき、そばのおしるこ等都會では口に出来ない素敵な駆走に全員笑みが絶えない。お腹を満たした一行は次年子窓に立ち寄る。廃校になつた多角形の校舎を拠点に高橋廣道さんといつ方び大きな浴槽等を焼いている。小さな猪口と寝釋迦の焼物をゲット。

田舎蕎麦の名所「平吉」は「平吉」というお店

年子地区に向かう。昼食

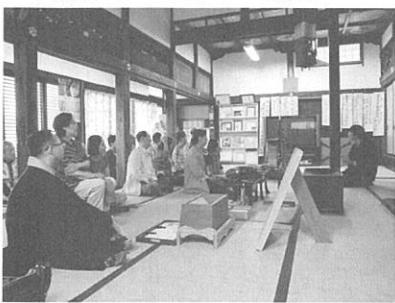
◆鈴木善巧住職(49歳)

◆庫裡でお茶&お漬け物タイム。





◆「報恩山西蓮寺に到着。」



◆本堂でじ法話をいただいている図。



◆お世話になりました。本堂前で!



◆お寺から「苦提樹の葉」のお土産。

◆金木住職も  
参加していただき、  
大いに盛り上り、初日の  
夜は更けて

アートな雰囲気に浸った一行  
は、西蓮寺さんへと向かった。  
本堂に上がらせていただき  
皆で正信偈・同朋奉讚  
を勤めた後、金木住職よ  
りお話ををしていただく。  
庫裡に移動して、住職、母上  
手作りの漬け物とお茶を頂  
く。種類が沢山あって目次  
りしてしまうが、どれも大変

5月20日
1日目
次年子窯
西蓮寺参拝
↓銀山温泉

に美味しかった。特に女性陣は何度もおかわりをしていた。法話の時は静かだったので、漬け物に関する質問はビックリするほど多く、住職の母上は疲れに違ひない。いつまでもおしゃべりをしていたから、が16時なので、お暇することにする。

バスに揺られて30分で『永澤平八』(お宿)のバス停に到着。バスはここから先是行けないので、宿のマイクロバスに乗り換えて移動する。ここ、銀山温泉は山深く、鳥のさえずりがこだまする、清流のほとりに佇む自然がじ馳走の温泉郷だ。大正ロマンの建築が軒を並べ、タイムスリップした様な感覚をおぼえる。お世話になる『永澤平八』は、大正14年築の木造三層造りで、硫黄臭のする源泉かけ流しの温泉を楽しむことが出来る。



◆宿の近くの「白銀の滝」

夕食まで自由時間。あたりを散策したり、ゆっくり湯舟に浸ったりと、各自思ひ思いのひとときを味わう。宴では、住職が用意した「ちよんまげ」と「町娘」のかつらをかぶったりして山形の「味覚」を楽しんだ。



◆女性たちは夕食後の契茶タイム

5月21日  
2日目

銀山(555)  
(古口港)



翌朝、鳥のさえずりで日が覚める。障子を開けてみると空が明るい。ひとっ風呂浸った後散歩に出でめる。冷んやりとした空気が清々しい。白銀の滝の方に進むと門徒さん達とそれ違う。聞くと早起きして奥の方まで行って来たとのこと。この先には色鮮やかな赤い橋や古い石の橋、銀坑洞と呼ばれる延沢銀山廢坑洞等があり。散策コースとしては面白い。

銀山温泉にお越しの際は

是非時間をかけてゆっくりと歩いていただきたい。美味

い朝食を取り、皆で記念撮影をしてマイクロバスに乗り込む。鈴木住職とはここでお別れである。有ること

難しおかげさんである。

8時40分、山交バス、山形にて調べていくつちに「最上ドライバー＆大竹ガイドさん、宜しくお願いします。約一時間で古口港に到着。古口港にある戸沢藩船番所に到着。船頭さんが出迎えてくれていた。今回お世話になる「最上岐芭蕉ライン観光」さんのホームページに「船頭が指名出来ます」と、話をみつけ、ネットで調べてみると、面白そうなのでYOUTUBE(ユーチューブ)に出ていたので、指名させたのが星川さんは、「最上川舟唄」の英語、韓国語、中国語、日本語、そしてフランス語バージョンを唄うことなどが出来るそうで、この

(指名料は1500円)



ことだ。星川遼子さんは、大学の時に民族系の音楽、特に沖縄の民謡に惹かれて卒業の研究乗り合いで出発となつた。

にしようと考へたそつだいが、山形生まほの自分がなんぞ沖縄…と思ひ、山形にて調べていくつちに「最上川舟唄」のことを知った。そして詳しく述べてある方に尋ねて教わるうちに舟唄の魅力にハマってしまった、舟唄を唄える仕事がしたいなど思ひ、大学を卒業後10年前にここに船頭さんにちなんだそつだ。この経緯を知り、指名させていたといつたのである。



◆ インタビュアーは新庄出身の女優、齋藤悠(さち)さん。

古口」とは出羽三山への古い入り口という意味で、この地方の言い伝えでは「三つの山をめぐると生まれかかる」とだまうた。NACKの取材はてつくり田生川さんの密着かなと田じたし、「めしともやまがた」という番組の「ばはんのおとをは何ですか?」とくもので門徒さん何人かがインタビューされた。



◆ 「川のコンビニ」で、甘酒やらアイスやら、王・こんにゃくを注文してるの図



◆ インタビューを受けてるの図

船底がドンドンと川面を打つ。出発してもなく強風となり静かなイメージの川下りは、海の外洋を進む魚船のようだ。船底がドンドンと川面を打つ。

5月21日
2日 日
最上川下り(古口) ↓ 川のコンビニ 草薙港(リバーポート) ↓



◆ 最後に「花笠音頭」を歌ってくれた。

### 最上川舟唄

掛声 ヨーイサンマカシヨ エーシヤコラマーカセー  
 エーエンヤエーエンヤエーエー エーハンヤエート  
 ヨーイサンノマカシヨ エーシヤコラマカセー  
 酒田を行ぐさげ 達者ごろチヤ ヨイコリハサノエー  
 流行風邪など引がぬよ  
 エーエンヤエーエンヤエーエー エーハンヤエート  
 ヨーイサンノマカシヨ エーシヤコラマカセー  
 股ん大根の塩汁煮 塩がしょぼくべくらちぐわきチヤ  
 エーエンヤエーエー エーハンヤエート  
 ヨーイサンノマカシヨ エーエンヤコラマカセー



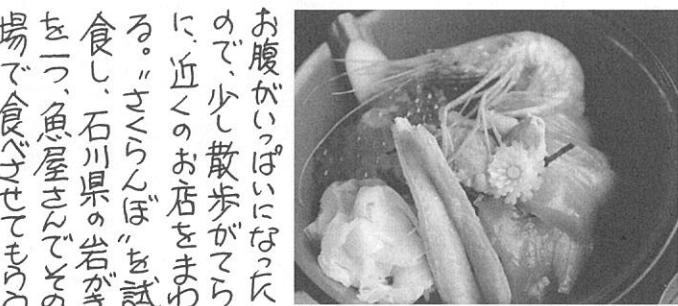
◆ 強風の中、草薙港に到着。  
スリルと笑いありで面白かった。



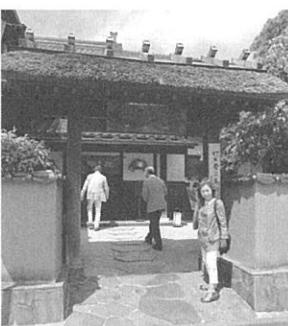
◆ ご縁で乗り合せた全員でハイチーズ♪

五月雨をあつめて早し最上川  
これは松尾芭蕉の句である。この句、はじめは“あつめて涼しげ”だつた。どうだが、実際に舟に乗った時、梅雨で増水していくとうとうスピードが出ていたのである。見るのと乗るのでは違つてのことか……。一行はリバーポートで待っていたバスに乗り込み酒田を目指す。約一時間で海の日の前にある“海鮮どんや・どじしま”といふレストランに到着。旅行会恒例のバスを降りたところでおこづかいをもつて好きなものを食べる。パターーの昼食である。2Fの食堂に入ると132席ある店内は平日などにはほぼ満席。少し並んだが意外にすぐ注文することができた。定食や丼もの

5月21日
2日目
↓ 草薙
↓ 登食
↓ 山居倉庫
↓ 酒田
↓ 相馬樓



のメニューが大きく貼り付いていて、レジの所で注文して放送で呼ばれてくるのを待つ。少しお金を足して「中トロ刺身+えんがわ+カニオ+ギライス+瓶ビール」をいただいた。内容で2千円しないのである。(写真は「海鮮丼」(千円)です)。



見聞しに行こう。最初に向かったのは「相馬樓」。これは江戸時代より料亭「相馬樓」である。明治26年(1893年)に建てられた「米の保管倉庫」である。NHKの朝の連ドラ「おしん」の舞台にもなった。夏の高温防止のために櫛型並木(樹齢150年)を配し、温氣防止のため二重屋根となっている。



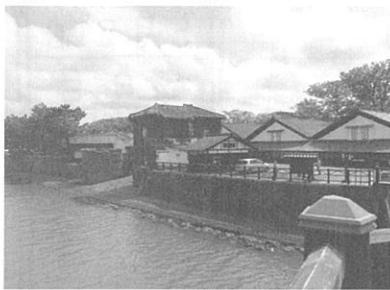
写真が展示されている。全般的に“朱色”が多用されていて、優雅で豊かな印象を受けた。続いて訪れたのは、「山居倉庫」。これは明治26年(1893年)に建てられた“米の保管倉庫”である。NHKの朝の連ドラ「おしん」の舞台にもなった。夏の高温防止のために櫛型並木(樹齢150年)を配し、温氣防止のため二重屋根となっている。

馬屋」として賑ひて来たという。現在残る木造の主屋は明治27年の庄内大震災の大火で焼失した直後、残った土蔵を取り囲んで建てられたものだそうだ。櫛内は大変広く、順路」という標識がなければ迷ってしまうだろう。

竹久夢二美術館

（夢二が撮影した美人の

5月21日  
2日 第二ホテル→紅屋



酒田の港から海産物等を、内陸部から米等を運ぶのに最上川は生命線であった。慶長六年(1601年)に山形藩主となつた最上義光は、難所の開削や河岸の設置によって最上川舟運の整備を図った。最上川本流に就航する250俵積み4人乗りの「ひらた舟」に対し、川幅の狭い支流用に「小鶴飼舟」が作られた。幅2m、長さは13~15mで前方に帆をかけ風を利用して、流線型でスピードも出たため重宝がられた。下りに4~5日上りには2週間かかったと伝えられている。我々は動力の船で12kmを約1時間で移動して来たが、400年も前は、大変だったんだろうなア。まして今日のよつよ強風では命がけであつたろう。大昔の最上川に思いを馳せながら運河にかかる橋から山居倉庫を見聞する。文化10年(1813年)本間



◆『小鶴飼船』(復刻版)

家四代目の光道が働く人々の幸福のためにおこした、救済事業で完成した別荘で、日本の代表的な庭園の一つである。昭和22年に本間美術館として発足以来、骨董、古書、絵画等の美術品を陳列していく所だった。“本間様には及びもせぬが、せめてなりたや殿様にと、俗謡にうだりれる程の豪商で、まさに日本一の大芝主なるのである。シルクロード伝来の仏像や、日本の木版画等を味わつて後、池泉回遊式庭園の「鶴舞園」等の中に建つ「清遠閣」を見て回る。京風の精緻な造りと、大正ロマンを偲ばせるモダンな調度がなんとも心地よい建物であった。すっかり大正チックなじ持ちとなつた一行は、バスで本日の宿、東京第一ホテル鶴岡へチェックイン。ここは鶴岡駅からすぐで、10階には天然温泉施設がある。各自自由行動の後、和洋食割烹「紅屋」さんで二日目の宴を味わつた。住職が必死で探したこのお店は超大当たりで、参加者全員から“満足”と頂いた。



◆鶴岡へ来たら是非「紅屋さんへ、住職イチオシのお店です!」

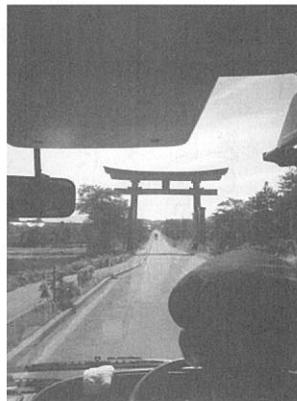


◆お食事のほんの一品。



早朝、快晴のもとホテルの10階の展望露天風呂に浸る。“有ること難いのがたくさん”である。朝食を済ませ、バスで出発する。参加者は全員時間を見守ってくれるので、8時ちょうどに登場することが出来た。山形県にある山岳修験の道場である月山、湯殿山、羽黒山を合せて出羽三山と云う。これから向かう羽黒山には三つの神を祀る三神合祭殿がある。月山や湯殿山は冬は雪で参

5月22日  
3日目  
鶴岡 ↓ 羽黒山  
五重塔 ↓ 三神  
合祭殿



降りて“五重塔”まで歩く。  
平安時代中期に平将門が  
創建し、約600年前に再建  
されたと云う。東北では最古  
の素木造り。隨神門をく  
ぐって階段をおりていく。余  
中、須賀の滝、爺杉(天然  
記念物・48m)など見所満載



◆ 箕の厚さはなんと2.1m。



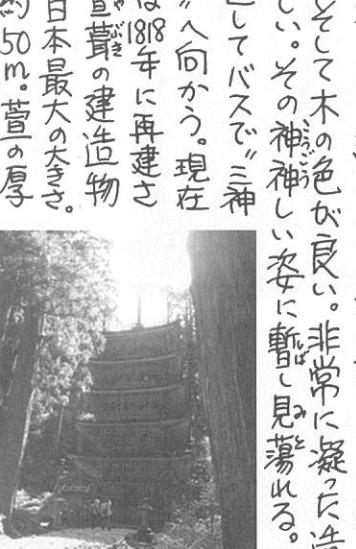
◆内部は広く柱も太い。



## ◆ 国宝の五重塔

三神合祭殿の中は総漆塗で、立体的な欄間は  
色づかいがカラフルで見事だった。お寺にはあま  
り見られないよつた感覚である。お土産ものと  
売っている店へ並びに「庄内刺し子」の店があった  
ので入ってみる。青森・津軽の「ぎん刺し」、南部の「南  
部菱刺し」となれば、日本三大刺し子の一つだ。一針一針  
手仕事で手間と時間がかかるそうだが、温もりを感じ

やっくり歩くと約15分。“五重塔”がその姿を表す。“かい!”そこで木の色が良い。非常に凝って造りで、大変美しい。その神神しい姿に暫く見入る。来き道をひき返してバスで“三神合祭殿”へ向かう。現在の社殿は1818年に再建された。萱葺の建造物としては日本最大の大きさ。高さは約50m。萱の厚さがとても厚くて美しい。



5月22日

3日目

大日坊(真言宗) ↓  
駅 → 東京駅

じる。小物を数点購入し、玉こんにゃくを一串ほおぱりながらバスに乗り込む。ここから約一時間で最後の目的地である「大日坊」へ到着する。825年に空海が開山したと伝えられている。この寺には1786年に96歳で没した真如海上人の即身仏(ミニヤ)や、鎌倉時代創建の「仁王門」がある。左右には風神と雷神像が安置され、その奥には運慶作となりれる仁王像が鎮座している。神社仏閣を参拝した一行は、途中、「米の粉の滝ドライブイン」に立ち寄り、それぞれお好みなお食事を取り、ショッピングを楽しんだりして山形駅を目指す。



◆つばさ 150号



この山形には「日本一」がいろいろあるそうだ。即身仏は全国に23体あるところが、そのうち8体は山形にあるそうだ。その他、ブナの原生林、三世帯同居の数、アイスクリーム、ラーメンの消費等なかなかユニークだ。15時ちょうどに「山形駅」に到着する。長じようであとう間の三日間。よく食べ、よく笑ったなマ....。荷物をおろし、バスのドライバーとガイドさんに別れを告げて、山形16:07発の「ばさ150号」に乗って東京に無事に到着出来たことに感謝! 今回もそれぞれ握手をして「また次の旅行会で」となど挨拶をして解散した。人情と

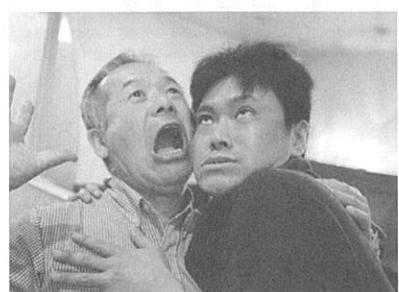
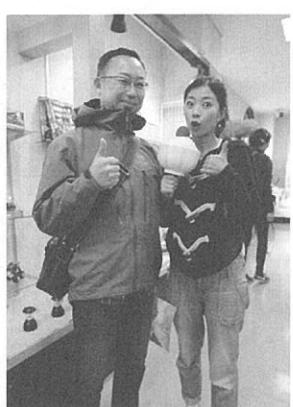
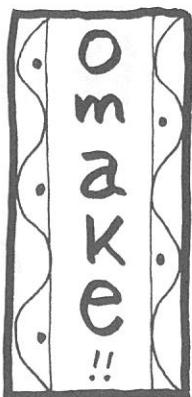
Special Thanks  
鈴木善巧住職  
&ご家族の皆様

西蓮寺の  
阿弥陀如来さま



お天氣に恵まれて、トラブルもなく山形を見聞出来たことは、本当に有ること難しおかげさんになつく。次回も楽しい旅行会を企画いたします。有縁の方々のご参加を心よりお待ち申しております。





# 今年の高徳寺の報恩講は

## 10月24日(土)です

- ◆ 法話のご講師は 海法龍先生です。  
(横須賀・長願寺のご住職)

秋号でもご案内いたしましたが、カレンダーや手帳等に  
「報恩講 参詣」と書き込みしていただきたいたいと思います。  
宜しくお願ひいたします。

Syakson's  
シャクソンズ  
ライヴパーティー

8/26(水) 18時~21時  
(開場は17時)

1000円(お一人様)

\* 災害等の義援金BOXを設置させて  
いただきますので、ご協力をお願い  
いたします。(小学生以下は無料!!)

遊びに  
来てください  
ね

のご案内

高徳寺  
新白石記念ホール  
B1でやりま

Open 17:00
Start 18:00
マジックショー (マジシャン寺西)
19:00 Live①
20:00 Live② (リリリディスコ タイム)
21:00 終了予定

# おみがき 奉仕御礼

~ 2015年 3月 8日(日) 本堂にて ~

奥野登子さん・海東雅子さん・菅原悟さん・菅原千恵子さん

寛谷恵美子さん・水越拓路さん・水越和子さん・山内貞子さん

♪ okagesan de butsugu wa pika pika desu.

おみがきの会

毎回14:00~

御礼は次号で。

7/5(日)

9/6(日)

12/27(日)

終了後 望年会  
を開封

お寺に  
遊びに  
来てくだ  
さい♪

カンパ御礼

大塚 裕司さん  
江守 敏雄さん  
大槻 宏子さん  
金山 徳喜さん  
鈴木 新一さん  
匿名希望さん  
飯島 正さん  
鈴木 みさとさん  
神野くららさん

応援していただきまして  
感謝いたしております♪

仏法の温泉  
1泊2日の聞法の旅

2015.11月4~5日

茨城方面  
(大洗・鷺松亭泊)

講師: 太田浩史氏  
(高岡・大福寺住職)

詳細は次号にて!  
真駒浴池 東京教区  
主催

寺ヨガ &  
寺子屋の時間

今後の日程

7月 25日(土)

8月 22日(土)

9月 12日(土)

10月 3日(土)

11月 14日(土)

12月 19日(土)

14:00~15:00

寺ヨガ

15:00~15:30

お勧め

15:45~17:30

寺子屋

## あとがき

羽田空港が2013・2014年と2年連続で「清潔な空港」

世界一に選ばれたこととさしての放送で初めて知った。その栄光を陰で支えたのは羽田一筋20年、清掃技能選手権で最年少で“日本一”に輝き、現在空港で働く清掃員500人のトップとして多忙な日々を送っている新津春子さん(45)である。彼女は、オフ次世界大戦時の日本人残留孤児

の父と中国人の母との間に生まれたハーフである。生まれ育った中国でも、初住先の日本でも、せ絶ないじめを経験したという。「自分はいったい何者なの?」とう悩みを抱えながら、唯一届いてもらえた清掃の仕事に、朝も夜も明け暮れた。23歳の時、羽田空港の清掃員になりました。ここで恩師の鈴木優さんと出会う。どんなに技能が上達しても鈴木さんは褒めてくれない。「もっと心を込めなさい」と教えられた。彼女は、その場を使つ人を思ひやり、邪魔にならない身のこなしや見えない場所と二オイまで配慮するように励んだ。こうして迎えた清掃の技能選手権の全国大会で見事“日本一”に輝く。心を込めて清掃し、行き交う人々から「ご苦労様」「きれいですね」と声をかけられるようになつた頃、この清掃という仕事こそが、ずっと探していいた自分の居場所だと分かった。羽田が私の家です”とう新津さんの言葉が印象的だった。さて、“自分の居場所”って、いったいどこにあるのかな……。

釋義祐



表紙の絵:銀山温泉「永澤平八」

「生きるということそれは常に誕生の意味を問われ続けること」